

人工光捕集タンパク質

ポルフィリンを扱う分野では、古くから集合体に関する研究が数多く報告されてきた。学術的に集合挙動がユニークであること、分光学的に評価しやすい部分が多いことや天然光合成系に含まれる光捕集系のモデルあるいは人工光捕集系への展開がその主なモチベーションだろう。光合成研究の花形は、天然系においても人工系においてもやはり触媒中心であるが、分子ベースの触媒を用いて、光子密度の低い太陽光で多電子プロセスを実現する上では光捕集系は無視できない。本稿では、これまで取り組んできた人工光捕集系について記述する。・・・